

# シンポジウム

『住民と共に取組む健康づくり』

御代田町 元保健福祉課長 古畑 洋子

御代田町では、平成18年度から介護予防事業に力を入れ、平成27年度からは新しい介護予防・日常生活支援総合事業に取り組んだ。

総合事業は、介護保険を申請する前から利用でき、当町では、国が示した訪問・通所のすべてのメニューを揃え、対象者の状況に応じた支援体制を整えた。

第7期介護保険事業計画では、介護保険料(基準月額)を第6期介護保険事業計画より引き下げることができ、予防活動の成果が大きな要因と考えられる。

また、平成22年度から「生活・介護支援サポーター養成講座」を開催し、1期生修了者29名で「はつらつサポーター」を結成し、スキルアップを図りながら地域での活動を開始した。現在は59名のサポーターが、住民を支えるため地域6か所の「はつらつ介護予防教室」で活躍している。

総合事業には、住民の力も大きく、「NPO法人御代田町はつらつサポーター」が事業の一翼を担っている。

古畑 洋子（ふるはた ひろこ） 略歴

1981年	長野県公衆衛生専門学校卒 御代田町役場勤務
2011年	保健福祉課 健康推進係長
2014年	保健福祉課長
2019年3月	退職

阿智村 保健師 山本 昌江

1. 「地区担当制」で家族まるごとの地域づくり

当村の保健師活動は、受け持ち地区のすべての住民を対象にする完全な地区担当制である。住民はワンストップで何でも相談ができる。例えば赤ちゃんの訪問で介護保険の相談があれば、その場で申請し認定調査を行い、その日のうちにサービスを入れることもできる。家族まるごとの支援ができ、地域の課題もつかみやすい。

2. 住民との協同は「夜間」

地域の学習会や保健委員会などの会議はほとんど夜行われる。全 56 集落を巡回する健康学習会(健康全員常会)も夜間のため、若い世代から高齢者まで多くの人が参加できる。毎年全世帯の半数近くが参加している。

3. 阿智村の住民主体の村づくりと健康づくり

当村の住民主体の村づくりの要は、「村づくり委員会」制度にある。その健康版が「トリプル A」事業である。10人以上集まって行う健康づくり事業に対し、その講師料を補助する制度である。1 サークル 12 回まで、1 回 5,000 円までの補助で、現在 30 数団体が登録し活動している。一見講師料を出すだけの制度に見えるが、住民自ら学習計画を作り、仲間を組織し、自ら実施する、という住民主体の組織活動である。

山本 昌江 (やまもと まさえ) 略歴

- 1985 年 都立公衆衛生看護専門学校卒業  
国立西埼玉中央病院小児病棟勤務
- 1987 年 所沢市役所へ入職
- 2013 年 阿智村役場勤務

栄村 保健推進員 上倉 絵里  
石澤 貴江

栄村は、長野県最北端の県界に位置し、東に越後湯沢町、北に津南町・十日町・上越市、西に飯山市、南に野沢温泉村、新潟県中条町、と接している。四季折々の気候を活かし、隣接する津南町と連携を図り、秋山郷や苗場山麓ジオパークの観光に繋げている。栄村の人口は年々減少傾向で、平成31年4月1日時点での総人口は、1,828人であり、うち65歳以上は983人、高齢化率50.33%と2人に1人が高齢者である。また、高齢者の独り暮らし、二人暮らしも増加している。

栄村保健推進員会は保健衛生事業の円滑な推進を図り、併せて住民の健康管理及び公衆衛生に関する思想の高揚を図るため、昭和30年に設立された。令和元年度の保健推進員は38名、任期は2年。各地区から役員として選出される為、住民の状況により1年交代の地区もある。

主な活動は、保健推進員の知識やチームワークを深めるための自主学習や研修。保健福祉事業への協力として、村の各種検診申込調査書や総合健診受診券の配布と回収、各種検診や結果報告会参加の周知、更には、一般介護予防事業の協力や対象者への周知など、村の保健師をはじめ行政の職員と共に様々な活動を行っている。

村の保健師など行政と共に様々な活動を行っている。

上倉 絵里（かみくら えり）  
石澤 貴江（いしざわ たかえ） 略歴  
2018年～2019年 栄村保健推進員会代表